

公益社団法人日本語教育学会
文部科学省委託
「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」

モデルプログラム⑨
地域の支援ネットワーク

文化間移動をする
子どもたちへの
地域支援の可能性

地域で
共に暮らし
成長を伴走し、
社会参加を
後押しする

東京学芸大学
齋藤ひろみ

1

1 子どもたちのライフコースを支える支援

地域で子どもたちによりそうこと・・・

- ・「地域での暮らし・家族との暮らし」を共に営む
- ・「子どもから大人への成長」を伴走する
- ・「地域社会の一員としての歩み出し」を後押しする

社会的役割

ライフコース研究においては、からだの仕組み、発達過程と社会化、人生の意味や目標とその獲得手段を決める社会文化的背景、そして、最後に歴史的背景やある時代の出来事や精神が、そのコーホートに属する個人の人生体験に影響を及ぼす様相に注目する必要がある。社会化のプロセスに着目すれば、ライフコースの発展と形成は社会的役割の連鎖であり、各段階での役割遂行が人生の満足度につながる。

J.A.クローセン著、佐藤慶幸・小島茂翻訳 『ライフコースの社会学 新装版』早稲田大学出版部、

2

グエンさんのライフコース(両親がベトナム人インドシナ難民)

齋藤ひろみ・今澤俣・内田紀子・花鳥健司(2011) 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』 凡人社

9歳 ①「おしゃべりはできるのに、勉強がわからない」

4歳 保育園入園

7歳 公立小学校入学

12歳 ②「私は皆と一緒に勉強したいのに」

13歳 公立中学校

14歳 ④「親は、私のことをわかってくれない」

15歳 ⑤「パソコンと割り算はできないと！」

20歳前後

その後
定時制高校入学
経理関係専門学校入学
輸入会社入社
学習支援室のボランティア開始

グエンさんが生まれてから定時制高校に入るまでのエピソードを、想像してみましょう。

日本で誕生

3

グエンさんのエピソード④

中学2年の空、進路を考える時期になりました。グエンさん本人は、成績の問題もあるし、7歳年上の姉が中学卒業後、就職していたので、自分も就職するつもりでいました。

しかし、両親は、姉の分まで勉強して大学に行ってほしい、医者や弁護士のような仕事に就いて、日本にいるベトナム人の約に立ってほしいと希望していました。グエンさんは、「自分の成績で高校になんか入れるはずもない。私は、何よりも早く自立したいし、ベトナム人のためになんて考えたこともない。親は、私の気持ちを全くわかってくれない」と思うようになります。

<話し合い>

グエンさんの気持ちと親の気持ち、あなたは理解できますか。学校の先生やクラスメイトは、グエンさんにどんな助言をすると思いますか。

4

<ロールプレイ>

あなたの支援教室に、グエンさんが来たと想定します。グエンさんの話を傾聴しつつ、進路選択について助言をしましょう。

- ①ペアになって、どちらの役をするか決めます。
- ②それぞれの立場になったつもりで、何を話すかメモをします。
- ③メモをもとにしながら、ロールプレイをしましょう。
- ④ロールプレイ後、支援者として、グエンさんのような状況にある子どもに、どんな支援をするのがいいのか話し合います。

支援者役

グエンさんに、進路について声をかけ、今の考えとそう考えるようになった背景を聞き出しましょう。また、学校の先生や家族の考えなども引き出した上で、グエンさんの本当の気持ちを理解した上で、助言をしましょう。

グエンさん役

グエンさんのいまの考えの背景にある状況や気持ちを想像して、支援者役の人からの進路に関する問いかけや助言に応じましょう。

5

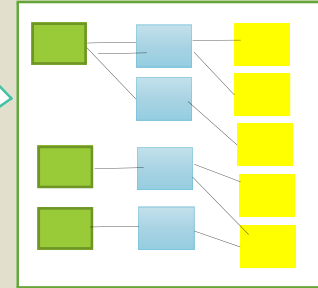
2 皆さんの教室で学ぶ子どもたち

- ①下の3点について付箋にメモを作成し、台紙に貼ってください。

自身の教室に来ている子どもたちの課題と支援を整理します。

※子どもの名前は出さないでください。また、個人が特定されないようにして話してください。

- ①どのような子どもが来ているのか（緑の付箋）
- ②その子どもは、どんな点で困難や課題があるのか（青）
- ③その子どもが、困難や課題を乗り越えるために、どんな支援をしているか。あるいは、できそうか。（黄）



6

- ②ペアか3人グループになって下さい。作成した付箋メモをもとに、自身の教室の子どもたちの様子や支援についてグループ内で紹介してください。

<話し合いで気づいたこと・学んだこと>

- ・子どもたちの状況について、参考になったことはありますか。
- ・支援の仕方、参考になったことはありますか。

<実施している支援を振り返りましょう>

- ・皆さん自身の支援は、子どもにとって、右のA・B・Cのどれに当たりますか。

子どもたちによりそう

- A「地域での暮らし・家族との暮らし」を共に営む
- B「子どもから大人への成長」を伴走する
- C「地域社会の一員としての歩み出し」を後押しする

7

3 地域で支援する「ことばの学び」 — 地域の一員として学び・参加するために —

- 支援の工夫
 - 地域の教室・地域社会で・皆さんと
- ノンフォーマルな地域支援教室
 - 子どもたちと社会を結び、社会参加を支援

8

支援の工夫 1

...様々な場面(文脈)で日本語を使う機会を提供する

日本語指導の例(助数詞の学習)

- ①語彙カードを1枚ずつ見せてリピート
- ②ランダムにカードを見せて言わせる
- ③物の絵を見せて、唱えさせる

- 1本・2本・3本・・・10本
- 1匹・2匹・3匹・・・10匹
- 1冊・2冊・3冊・・・10冊
- 一人・二人・三人・・・10人

ドリルで覚えさせるだけではなく

実際に助数詞を使う場面に結び付けましょう。

- ◇ゲームで楽しく
- ◇算数の文章題やグラフの読み取りで教科学習と関連付けて
- ◇教室のメンバーの話を聞いて
- ◇自分自身のことを語って

9

支援の工夫2

...地域の情報・施設を利用して

「～に～があります」の学習で地域の情報を入れた例文を考えましょう。

- ・
- ・
- ・

「地震が来たら、～」

緊急時に、どのように行動すればよいのか、例文を作ってみましょう。

- ・
- ・
- ・

考えた例文で話したり・読んだり・書いたりする活動をししましょう。また、この学習と合わせて地域の地図を作ったり、実際に足を運んで避難場所を確認したりと、体験を通して学ぶ機会を設けましょう。

⇒行動範囲が広がり、地域での安全な暮らしを知るようになります。

10

支援の工夫3

...子どもの気持ち・経験を理解し、可能性を信じ
そして、自身の経験・知識・考え方を伝える

事例から

- ・干支で自己紹介
- ・動物の写真を利用して動物類型を学ぶ
- ・自宅にある家電製品から電気の機能を学ぶ

事例から

「パソコンと割り算はできないと！ー地域の日本語教室の支援と役割」

子どもと親の間の文化差を支援者が結び

浦和かほる (2012) 「子どものための夏休み日本語教室におけるテーマ型・活動型学習」『言語教育実践イマ×ココ』

齋藤他 (2011) 『外国人児童生徒のための支援ガイドブックー子どもたちのライフコースによりそって』p. 75より

11

5 学校・教師...ネットワークの重要性

子どもたちの**社会化**のための**資源**を提供する場を創る

子どもたちは、成長とともに社会の多様な空間に足を踏み入れ、そこでの活動を通して、自身の将来像を設計し、そのための道筋を探る。

フォーマル・ノンフォーマル・インフォーマルな教育の場のネットワーク化

- ・家庭、学校、地域が子どもたちの成長に応じ、柔軟に関係を結び、社会化のための資源となる。...**フォーマル**な教育の現場である学校と、**ノンフォーマル**な学習の場である地域の教室など、そして、家庭や社会が**インフォーマル**な教育の場として結び合っていることが重要。
- ・そこに、学習(ことばの学習を含む)への意味づけが生じ、主体的な学びが形成される。**生涯学習/教育の積極的な意味づけと充実が期待される**

12